

機関番号：14301

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008年度～2010年度

課題番号：20330172

研究課題名（和文） トランスナショナル・エデュケーションに関する総合的国際研究

研究課題名（英文） A Comprehensive and Comparative Study on the Transnational Education

研究代表者 杉本 均 (Sugimoto Hitoshi)

京都大学大学院・教育学研究科・教授

研究者番号：50211983

研究成果の概要（和文）：

本研究においてはトランスナショナル教育(TNE)の世界的動向、発展のメカニズム、そして直面する課題について、総合的な国際比較の観点から分析を行った。TNEとは、教育の成果を認定する機関が所在する国とは異なる国で学習者が受ける教育プログラムである。その結果TNEは国家や提供機関によって、その展開への積極性、提供形態、質保証のシステムにおいて大きな相違が見られることがわかった。結論として、日本の高等教育はこの分野において大きく出遅れているが、そのことは、長期的な高等教育戦略の観点からみて、必ずしも高等教育の国際競争における敗北や、システムの国際化の否定を意味するものではないことが明らかになった。

研究成果の概要（英文）：The study analyzed the overall trend, development mechanism and the facing problems of transnational education (TNE) from a comparative and comprehensive perspective. TNE refers in this study to the education programs in which learners are located in a country other than the one in which the awarding institution is based. The study has found that the propensity for, types of delivery of and quality assurance system of TNE differs much among countries and institutions, and depending on whether sending or hosting programs. In conclusion, although Japanese higher education falls behind the other developed countries in this field, it does not necessarily mean the nation's failure in academic competition or the denial of internationalization of the system in terms of long term development strategy of education.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	5,200,000	1,560,000	6,760,000
2009年度	5,100,000	1,530,000	6,630,000
2010年度	4,900,000	1,470,000	6,370,000
2011年度	0	0	0
2012年度	0	0	0
総計	15,200,000	4,560,000	19,760,000

研究分野：比較教育学

科研費の分科・細目：教育学・教育社会学

キーワード：留学、国際学位、外国大学分校、トウニング学位、オフショア・プログラム
国際通信プログラム、外部学位、高等教育の質保障

1. 研究開始当初の背景

近年の国境を越えて展開する高等教育プログラムおよびその学位・資格・単位の授与を

めぐるトランスナショナルな展開については、従来の伝統的な留学概念からの根本的な離脱をせまるようなパラダイム転換が起こ

りつつある。そしてその急速に進展する新しいトランスナショナルな学位・資格・単位プログラムをめぐるビジネスは急速かつ確実に拡大しており、国によっては伝統的留学によって得られる貿易収支に匹敵する規模に成長しつつある。しかしこうした世界を動かすほどの顕著な教育現象に対して、わが国の高等教育およびその政策は完全にたち遅れており、まともな統計もなく、そもそも理念的・概念的な対応すらできていない。こうした状況において、世界的な動向を正確に把握し、その潮流の背景や構造を国際的に分析する必要からこの研究を企画するに至った。

2. 研究の目的

本研究は現実に起こりつつある状況に対して、トランスナショナルな教育の現状を把握するとともに、その現実が伝統的な留学観や、ひいては教育観に突きつけている意識変革への挑戦について明らかにし、その変革を背後で推し進めているメカニズムと論理、それに抵抗・留保しようとする理念・理論のラショナル、さらにそれらのもたらす効用と課題、それらの衝突によって予測される混乱と将来的な動向について国際比較的に分析しようとするものである。

本研究は各国分担国・地域において、

(1) どのような実態があるか(海外提供と国内受入れ)、どのようなデータがあるか、国家の教育・留学政策においてどのように位置づけられているか、について概観を得るとともに、

(2) より具体的にどのようなプログラムがあるか、どのような実績(提供・受入れ・受講)があるか、各プログラムの実施・委託・請負において、①入学・受講資格要件、②授業料その他コスト、③カリキュラム管理、④教員資格・条件、⑤試験管理、⑥スクーリングの有無(通信課程・学外学位)、⑦海外課程と本校課程の比率と移動要件(海外プログラム)、⑧学生福利、⑨評価・審査システム、などについて明らかにする。さらに

(3) これらのプログラムや学位・資格・単位の質の保証・水準の維持の側面について、①法的立場(機関の場合)、②法的規定、③プログラムの認証・認可システム、④その他質の保証水準の維持にかかわるしくみがあるか、などについて検討する。そして

最後にこうしたトランスナショナル・エデュケーションの展開が各国の教育・留学政策に与えている影響、それによって生じている問題、トランスナショナル・エデュケーションという概念そのものが、伝統的留学観・教育観に突きつけている課題と挑戦、それを推進している背景と諸要素、あるいはそれに抵抗している背景と諸要素について分析を行う。

3. 研究の方法

(1) トランスナショナル・エデュケーションに関する基礎的調査

国際教育流動、留学、留学の3つのアクター、留学生、留学プログラム、学位授与大学、履修機関、提携機関、学位、学位授与権、資格、単位、単位互換、教育サービス貿易、ホスト機関、高等教育、グローバル化などの概念について共通の基礎認識を形成。またその歴史の変遷と近年のパラダイム転換による概念の変容とその背景について調査を実施。

(2) トランスナショナル・エデュケーションについての関係者の評価

各国・地域の教育政策担当者、大学関係者、教員、学生(受講生・一般学生)、保護者、民間セクターなどにインタビューを行い、その評価、反応、対応、批判、展望、課題など意識・見解を求めた。

(3) トランスナショナル・エデュケーションに関する現地調査

各国・地域においてトランスナショナル・プログラムを海外に提供、あるいは海外から受け入れている教育機関を訪問し、その法規、環境、教育施設、教員・学生、保護者、管理・運営の実態について観察・資料収集した。

(4) 情報の集約と考察

全体打合せ会議や個別会議などにより、集めた情報を集約し、理論化や概念枠組の構築を試みた。

4. 研究成果

本研究により、高等教育における世界的傾向としてのトランスナショナル・エデュケーション(教育の成果を認定する機関が所在する国とは異なる国で学習者が受ける高等教育)の最新の動向が各国において明らかになった。イギリスでは2008年には調査された135機関のうち65.2%が同プログラムを提供しており、そのうちの43.6%がアジアで、28.3%がヨーロッパで実施されていた。一方アメリカは外国分校方式に力を入れており、2009年に世界中に設立されていた外国大学の分校は162校のうち78校(48%)はアメリカの大学の分校であった。

またこれらプログラムの展開形態についても情報が寄せられた。すなわち、国境を越えるプログラムの形態としては、フランチャイズ方式、トゥイニング形式、ダブル/ジョイント学位、単位互換協力、通信・遠隔教育などが多く、教育機関進出では、海外分校型、学習センター・サテライト型、提携校ネットワーク型などに多くが分類された。

また各国各地域のトップ伝統的においてはこの形態の国際プログラムへの進出はあまり積極的ではなく、二番手以降の国際的威信の高い大学などにおいて盛んであることが分かった。これらのプログラム成功のマー

ケティング環境としては、(1)高等教育需要が高いこと、(2)教育収益率(学位の価値)が大きいこと、(3)国内の高等教育が未発達であるか選択肢が不足していること、(4)渡航先国と自国の教育・生活コストの差が大きいこと、そして、(5)渡航先国の言語環境(特に英語)が自国に似ていること、などの要件が明らかにされた。

打ち合わせ会議の開催と専門家による講演会などを開催して、その情報の集約と行うとともに、現象の理論化、概念枠組みの構築を行った。2010年6月の日本比較教育学会(神戸大学)での課題研究Ⅱを本科研のメンバーによって企画・実施した。また同学会の機関誌である『比較教育学研究』第43号において、特集「国境を越える高等教育プログラム」の6編の特集論文を科研の参加メンバーによって執筆した。本年度において最終成果報告書『トランスナショナル・エデュケーションに関する総合的国際研究』(全228頁)を刊行した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計25件)

1. 杉本 均、トランスナショナル高等教育—新たな留学概念の登場、『比較教育学研究』43号、査読有、2011、印刷中
2. 秦 由美子、連合王国における国境を越える教育—現状と課題、『比較教育学研究』43号、査読有、2011、印刷中
3. Miki SUGIMURA、Diversification of International Student Mobility and Transnational Programs of Higher Education in Asia, 『比較教育学研究』43号、査読有、2011、印刷中
4. 南部 広孝、香港におけるトランスナショナル高等教育の展開、『比較教育学研究』43号、査読有、2011、印刷中
5. 杉本 和弘、豪州大学によるトランスナショナル教育の展開と質保証、『比較教育学研究』43号、査読有、2011、印刷中
6. 米澤 彰純、アジアにおける高等教育の国際連携と日本—イニシアティブの多極化とその行方『比較教育学研究』43号、査読有、2011、印刷中
7. 近田 政博、留学生の受け入れに関する大学教員の認識、『名古屋高等教育研究』、11号、査読有、2011、191-120
8. 近田 政博・鳥居朋子、優秀学生を対象とした特別教育プログラムの日米比較—学士課程におけるオナーズプログラムに注目して、『大学教育学会誌』、査読有、32巻1号、2010、85-93
9. 森下 稔、タイにおけるナショナルレス
- トの導入—2001年基礎教育カリキュラムとの関連を中心として、『九州教育学会研究紀要』、査読有37号、2010、65-72
10. 米澤 彰純、日本の大卒者の外国経験とその男女差、『大学論集』41号、査読有、2010、343-360
11. 梅宮 直樹・米澤 彰純・堤 和男、東南アジア地域の域内大学間交流と高等教育の自立化、『国際開発研究フォーラム』、39号、査読有、2010、57-74
12. 杉村 美紀、高等教育の国際化と留学生移動の変容—マレーシアにおける留学生移動のトランジット化—、『上智大学教育学論集』44号、査読無、2010、37-50
13. 秦 由美子、イギリス高等教育機関の財政的基盤、『大学論集』41号、査読有、2010、131-148
14. 米澤 彰純、世界大競争時代の大学人材養成(2)ダイナミックに変化する中国と日本のトップ大学、HC-Lab. Journal, Vol.2, 査読無、2009、14-17.
15. 米澤 彰純、世界大競争時代の大学人材養成(3)AUN-SEED-Netと東海大学、HC-Lab. Journal, Vol.3, 査読無、2009、20-23
16. 米澤 彰純、世界大競争時代の大学人材養成(4)慶應義塾大学と延世大学、HC-Lab. Journal, Vol.4, 査読無、2009、16-19
17. Akiyoshi YONEZAWA and Rie Mori, Learning Outcomes and Quality Assurance: Challenges for Japanese Higher Education, 『高教評鑑』査読無、3号(1)、2009、1-21
18. 南部 広孝、中国の高等教育戦略(前編)急激な量的拡大と質の維持・向上に向けた改革の進展、『リクルート カレッジマネジメント』、査読無、158号、2009、50-53
19. Daisuke SONOYAMA, La condition de travail de et la formation des enseignants, Cahiers Pedagogiques, 査読無、2009、57-58
20. 楠山 研、中国の大学における教養教育の動向、『教養教育の新しい一歩に向けて(2)(長崎大学大学教育機能開発センタープロジェクト研究成果報告書)』査読無、2009、17-27
21. 杉村 美紀、マレーシアにおける高等教育の国際化と教育の質保証、『上智大学教育学論集』43号、査読無、2009、53-66
22. 杉本 均、多文化社会における教育的受容と排除、『教育から職業へのトランジション—若者の職業選択の教育社会学』、東信堂、査読無、2008、160-177
23. Yumiko HADA, Current changes within the Japanese higher education

system: Past and future, A New Japan for the Twenty First Century 査読無 (Routledge), 2008, 157-175

24. 中矢 礼美, トランスナショナル・エデュケーションの動向—インドネシアを事例として, 『広島大学留学生センター紀要』18号、査読無、2008、1-25
25. 杉本 和弘, 国際的な「質」を追求する留学大国オーストラリア, 『週刊東洋経済』10月18日、査読無、2008、96-98

〔学会発表〕(計12件)

1. Coverdale-Jones, Masahiro CHIKADA, Lecturers' Perceptions of Teaching International Students、Academic Consortium21、2010年10月19日 Shanghai, China
2. 鳥井 康熙, アメリカ大学日本校の現状と課題、アメリカ教育学会第22回大会、2010年9月25日、芝浦工業大学
3. 杉本 均・中矢 礼美・米澤 彰純・鳥居 康熙, トランスナショナル高等教育の可能性と課題、第46回日本比較教育学会(課題研究II)、2010年6月27日、神戸大学
4. 森下 稔・カンピラパーブ スネート・鈴木康郎・平田利文, タイにおけるナショナルテストの実施体制：O-NET (Ordinary National Educational Test) の事例、日本比較教育学会第46回大会、2010年6月26日、神戸大学
5. Yumiko HADA, The Achievement of Bologna Process – from viewpoint of TNE, Bologna Follow-Up International Forum, 2009年12月1日、ブラッセルズ(ベルギー)
6. 森下 稔, タイにおける第二次高等教育15年長期計画(2008–2022年) – その特徴と意義を中心として –、日本比較教育学会第45回大会、2009年6月28日、東京学芸大学
7. 近田 政博・勢村かおり, ベトナムにおける2005年教育法と98年教育法の比較考察 – 教育の質を法律によってどう担保するか –、日本比較教育学会第45回大会、2009年6月27日、東京学芸大学
8. 園山 大祐, ヨーロッパ統合における階層化と平準化—フランスを中心に—、日本比較教育学会第45回大会、2009年6月27日、東京学芸大学
9. 近田 政博・鳥居 朋子・佐藤 万知・中島(渡利) 夏子, 学士課程教育の質的向上におけるオナーズプログラムの役割、日本高等教育学会第12回大会、2009年5月23日長崎大学
10. 森下 稔, タイにおけるグローバリゼーション対応の高等教育改革、九州教育学会

第60回大会、2008年11月24日、熊本大学

11. 杉本 和弘, オーストラリア高等教育におけるアウトカム重視の質保証、日本比較教育学会大会44回大会、2008年6月29日、東北大学
12. 鳥井 康熙, 外国大学日本校の現状と将来展望—外国大学日本校の指定の後をうけて—、日本高等教育学会第11回大会、2008年5月25日、東北大学

〔図書〕(計6件)

1. 杉本 均, 『トランスナショナル：エデュケーションに関する総合的国際研究』(科研最終報告書) 京都大学大学院教育学研究科2011、228頁
2. 杉本 均, 『トランスナショナル：エデュケーションに関する総合的国際研究』(科研中間報告書) 京都大学大学院教育学研究科2010、153頁
3. Akiyoshi YONEZAWA (共著) The World-Class University as Part of a New higher Education Paradigm (Jan Sadlak and Liu Nian Cai eds.), CE PES, Shanghai Jiao Tong University and Cluj University Press, 2009, 209-218
4. 南部 広孝, 『中国高等教育独学試験制度の展開』東信堂、2009、222頁
5. 秦 由美子, 『英国におけるギャップ・イヤーなど、学生または入学予定者に対する長期にわたる社会経験を可能とする取組みに関する調査研究最終報告書』、広島大学高等教育研究開発センター、2009、263頁
6. 塚原 修一編著(鳥井 康熙、米澤 彰純、秦 由美子章分担) 『高等教育市場の国際化』玉川大学出版部、2008、262頁

6. 研究組織

(1)研究代表者

杉本 均 (SUGIMOTO HITOSHI)
京都大学大学院・教育学研究科・教授
研究者番号：50211983

(2)研究分担者

米澤 彰純(YONEZAWA AKIYOSHI)
名古屋大学大学院・国際開発研究科・准教授
研究者番号：70251248

鳥井 康熙 (TORII ASUTERU)
桜美林大学・心理教育学系・講師
研究者番号：20367006

杉村 美紀 (SUGIMURA MIKI)

上智大学・総合人間学部・准教授
研究者番号：60365674

森下 稔 (MORISHITA MINORU)
東京海洋大学・海洋工学部・准教授
研究者番号：60300498

南部 広孝 (NAMBU HIROTAKA)
京都大学・大学院教育学研究科・准教授
研究者番号：70301306

中矢 礼美 (NAKAYA AYAMI)
広島大学・国際センター・准教授
研究者番号：70335694

山田 礼子 (YAMADA REIKO)
同志社大学・社会学部・教授
研究者番号：90288986

秦 由美子 (HADA YUMIKO)
広島大学・高等教育研究開発センター・准教授
研究者番号：30263031

楠山 研 (KUSUYAMA KEN)
長崎大学・大学院教育学研究科・准教授
研究者番号：20452328

(3)連携研究者

園山 大輔 (SONOYAMA DAISUKE)
文教大学・文学部・准教授
研究者番号：80315308

近田 将博 (CHIKADA MASAHIRO)
名古屋大学・高等教育センター・准教授
研究者番号：80281062

金子 勉 (KANEKO TSUTOMU)
京都大学・大学院教育学研究科・准教授
研究者番号：40263743

杉本 和弘 (SUGIMOTO KAZUHIRO)
東北大学・高等教育開発推進センター・准教授
研究者番号：30397921